

# 家族のかたちは

## イロトリドリ

心豊かな暮らしの大前提は、自分らしく生きること。

今月の特集では、多様性を認め合うことについて考えながら、本市が4月から導入した「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」を紹介します。

▶問い合わせ先＝男女共同参画室（☎内線278）

### 違いを認め合う

「Well-being」（ウェル・ビーイング）という言葉は耳にするようになりました。これは、心も体も、社会的にも満たされた状態や、実感としての幸せ、心の豊かさなどを表す言葉です。

本市でも、市民の皆さんの Well-being の向上と、未来に向けた人や環境にやさしいまちづくりを目指しています。

人それぞれ幸せの感じ方は違いますが、性別や国籍などにとらわれずに自分らしく生きるということとは、誰にでも共通する幸せであると考えられます。自分らしく生きるためには、誰からも「こうあるべきだ」「これが当たり前」というような決めつけや偏見など固定的な考えを押し付けられず、安心して暮らせる環境が必要です。

人の考えや特徴、価値観もさまざまであり、多様性を認めることは、そのさまざまな違いを認めることです。自分も人と違うところがあることを自覚しながら、それぞれ

の違うところを認め合って、互いに相手を尊重し合うことが、安心した暮らしにつながり、幸せの実感に結び付きます。

### 家族のかたち

多様化していることの一つに、パートナーや家族のかたちがあります。

婚姻による関係のほか、事実婚などの法的な手続きによらない関係など、さまざまなパートナーのかたちがあります。

同じように、家族のかたちも婚姻や血縁関係によるものだけではなくありません。

### 誰もが自分らしく 生きられるように

市では、市民の皆さんがパートナーとの関係や、家族のかたちについて選択肢を広げ、自分らしく生きられるように応援しています。

そのため、4月から「大船渡市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」を導入しました。

### Profile



岩手県男女共同参画センター長  
NPO法人インクルいわて理事長

山屋 理恵氏

2011年、NPO法人インクルいわてを設立。さまざまな課題を抱えた人への「当事者支援」と「地域づくり」を両輪に活動。  
2014年、岩手県男女共同参画センターを受託運営。  
2015年、岩手県で初の「こども食堂」を開催し、県内のネットワークを構築。  
趣味はザリガニ釣りという一面も。

### Interview

なぜ、「多様性を認め合う」ことが大切なのかを、岩手県男女共同参画センター長の山屋さんにお聞きしました。

多様性の推進とは、地域社会の豊かさにつながり、一人一人が尊重され、誰もが幸せな社会を目指すものです。

性別、年齢、国籍、障がいの有無など、さまざまな背景を持つ人々が共存することで、新たな価値やアイデアが生まれ、革新が進みます。

しかし、いまだに多様性を受け入れることができず、同質性（価値観や背景が近いこと）が重視されていることが多い状況です。差別や偏見などで他者を排除せず、ともに生きることができる社会の確保と制度や環境の整備が必要です。

多様性がある地域にはより多くのさまざまな関係が構築され、地域の文化や風習の幅をさらに広げ、未来に向けた生活の質の向上、地域経済の活性化にもつながります。

イロイロな

## 家族のかたち

### ■パートナーのかたち



パートナーシップ宣誓制度が利用できます

### ■家族のかたち



3世代家族や、おじ・おばと暮らす家族など、この他にもさまざまな家族のかたちがあります